



平成28年6月度 定例教育委員会

会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	平成28年6月3日(金曜日) 午後 3時00分～午後 3時55分	
場 所	文化センター3階 講習室5	
出席委員名	大 隅 久美子 (委員長) 松 下 順 英 (職務代理者) 布 目 有希子	橋 本 陽 生 谷 口 正 弘 (教育長)
委員を除く出席者の職・氏名	部 長 大 東 康 之 部 次 長 北 和 人 部 次 長 桂 智 美 部 次 長 西 川 茂 男 部 次 長 北 村 英 司 部 次 長 佐 野 正 樹 保育・幼稚園課主幹 北 村 泰 子 学校教育課主幹 福 田 昌 弘 学校教育課主幹 辻 元 弘	社会教育課課長 西 島 昭 彦 教育総務課主幹 加 藤 正 人 文化財保護課長 河 原 豊 教育支援センター所長 仲 辻 秀 樹 教育支援センター主幹 森 みゆき 生涯学習センター館長 吉 田 順 一 教育総務課係長 林 左和子 教育総務課 大 崎 茂 夫
<p>1. 報 告 事 項</p> <p>(1) 平成28年度市立幼稚園及び小・中学校在籍者数・教員数等(市独自速報値)の結果について (教育総務課) ※資料あり</p> <p>(2) 平成27年度「所報」の配付について(教育支援センター) ※資料あり</p> <p>2. 議 題 (協議事項)</p> <p>(1) 八幡市の教育行政について</p> <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年八幡市議会第1回定例会会議録の配付 ・前月分議事録(写し)の配付 		



内 容	
[委 員 長]	<p>定刻となりましたので、6月の定例教育委員会を開催します。 次第に則って進めさせていただきます。 まず、報告事項からお願いします。</p> <p>1. 報 告 事 項</p> <p>(1) 平成28年度市立幼稚園及び小・中学校在籍者数・教員数等(市独自速報値)の結果について</p>
[事 務 局]	<p>資料報告(1)で昨年度の人数を括弧書きしています。本年度の生徒・児童・園児総数は、5,916人で昨年度と比較すると109人の減です。本年度の公立幼稚園園児総数は、406人で昨年の510人より104人減少しております。なお有都子ども園でございますが、保育園園児数を含んでいますので、それを除くと公立幼稚園園児総数は、360人で昨年度より95人の減となります。</p> <p>園ごとで見ますと八幡幼稚園は25人の減、第二幼稚園は7人の減、第三幼稚園は12人の減、第四幼稚園は19人の減、橋本幼稚園は20人の減となっています。有都こども園の園児数は79人ですが、従来の幼稚園対象分としては33人で昨年より12人の減となっています。また、表には掲載していませんが私立の幼稚園の園児総数は776人で昨年の791人より15人減少しています。</p> <p>次に小学校ですが、小学校の児童総数は3,757人で昨年の3,783人より26人減少しています。学校別で見ますと八幡小学校では4人の減、くすのき小学校が5人の増、さくら小学校では増減なし、橋本小学校では13人の減、有都小学校では13人の増、中央小学校では9人減少しております。南山小学校では14人の減、美濃山小学校では4人の減となっています。</p> <p>中学校の生徒総数は、1,753人で昨年の1,732人より21人増加しています。男山中学校は11人の増、男山第二中学校は17人の減、男山第三中学校では15人の減、男山東中学校では42人の増となっています。以上でございます。</p>
[委 員 長]	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>資料を見ていただいて質問等があればお願いします。</p>
[委 員]	<p>小学校から私学の中学校に進学する生徒数を前年度との比較数が分かっていたら教えてくださいませんか。</p>
[事 務 局]	<p>また、調査させていただきます。</p>
[委 員]	<p>文科省の定数を超えて、1人教師を付けて1クラス増やすという措置をとっている学校・学年を教えてくださいませんか。</p>
[事 務 局]	<p>正確な数字は、手元に資料が無いので、今直ぐは分かりません。</p>
[委 員]	<p>それならいいです。</p>
[事 務 局]	<p>多分小学校で、11の学年が中学校では4学年が京都式の少人数学級を選択し国の定数より少ない学級編成になっていると思います。</p>
[委 員]	<p>はい、分かりました。</p>
[委 員 長]	<p>それでは、報告事項の(2)に入りたいと思います。</p> <p>教育支援センターよろしくをお願いします。</p> <p>(2) 平成27年度「所報」の配付について</p>
[事 務 局]	<p>昨年度の所報を、遅くなりましたがお配りしましたので、ご覧ください。</p> <p>構成は、教育相談、教育支援教室、特別支援教育・就学指導委員会です。</p> <p>「教育相談」の昨年度の相談状況(実績)を4ページ以降に、「教育支援教室“さつき”」につきましては、ページ11からで、個別のさつき教室については、15ページから、19ページからは小集団の取組を掲載しています。</p> <p>「特別支援教育・就学指導委員会」については、25ページ以降になっております。</p> <p>平成27年度の教育相談は、延べ3,092件の相談を受けました。</p>



特徴として、年度初めに相談が大幅に増加した年でした。また、相談内容の特徴として、(5ページの図4)中学生の不登校の相談が多く、小学生の登校しぶり、性格・行動が多くありました。小学校“いじめ”1人、3月に小学生保護者からの相談が1件あります。内容は、教室の机をめぐるトラブルが発端で、数名の児童が関わっていた。学校と連絡を取り、管理職も入った対応がされていて、解決されていると聞いています。受理をしてのカウンセリングには至っていません。

続いて、教育支援教室ですが、31名(小学生5名、中学生26名)の児童生徒がさつき教室に通室しました。学校復帰については、進学、部分復帰(継続的に別室等)も含め、小学生3名、中学生20名の計23名が復帰しました。進路については、中学3年生9名、中学校との連携で高校に進学をしました。

平成27年度の特徴として、さつき教室の個別から小集団へ移行して指導したケースがありました。その他の傾向として、小集団指導の児童生徒でも、支援員との二者関係が必要な子がほとんどです。

特別支援教育については、25ページの各種調査、特別支援学級、通級指導教室等への入級、通室にかかわる事務や、通常の学級で配慮や、特別な支援を要する児童生徒の把握と、UD化を進めるための支援や参考資料の提供を行ってきました。平成27年度は、福祉と教育(学校)との連携のルールを実際に生かした連携が進みました。(保育所等訪問支援、放課後デイサービス)就学指導委員会の教育相談件数は、64件。多い状態が続いています。26ページ、27ページをご覧くださいと思います。課題としては、「就学指導委員会」から「教育支援委員会」への名称等の変更です。

大まかなご報告ですが、また、ご一読いただければと思います。以上でございます。

[委員長]

はい、ありがとうございました。高校に進学した中学3年生9名のその後は、如何ですか。大丈夫ですか。

[事務局]

現在までは、問題ある連絡は受けていません。

[委員長]

他に、何か質問はありませんか。

[事務局]

先ほどの私学進学の質問について、少し報告があります。

[事務局]

今お手元に配付させていただいた資料は、小学校の卒業生数と市内の中学校への入学者数です。その差が全て私学進学者というわけではなく、転出者、転入者が居るので、それを含んでいます。

このデータは、2月末日の見込の数字です。平成27年度の小学校の卒業生数が647名、平成28年度の中学校1年生の生徒数579名が市立の中学校に進学しています。市内公立中学校に進学した率は、約89%です。

なお、転出・転入を含まない私学に進学した生徒数については、また調査して報告させていただきます。

[委員長]

早速調べていただきまして、ありがとうございました。

橋本委員、これでよろしいでしょうか。

[事務局]

結構でございます。

[委員長]

他に、ご質問等はありませんか。それでは、次第に則って2.議題に入らせていただきます。八幡市の教育行政について忌憚のないご意見をお聞かせください。

2. 議 題 (協議事項)

(1) 八幡市の教育行政について

[委員長]

今日、学校訪問をいたしまして、最初に有都こども園をたずねました。先生方も勉強されてこども園の教育を進められておられます。職員が40名もおり園長先生も大変だと思います。その中で少し話し合いをしたのですが、就学前教育のあり方について考えるところがあったと思います。八幡市の狙いとして、幼稚園と保育園がこども園になっていくのなら、こども園が保護者にもっと理解されることが必要だと思います。

[委員]

こども園のアピールポイントや職員の皆さんの認定こども園の理解度、或いは八幡市の幼稚



園の先生方の認定こども園への希望度合、認定こども園への教員の人気度等、教員の意識等を知りたくて意見交換をしました。園長先生自身も今年初めてなので、構想を立て、研究テーマを創るのに苦労しておられる状況です。比較するのが良いのかどうか分かりませんが、私学の幼稚園のカリキュラムの明確さや広報の仕方と比べて、公立の幼稚園・認定こども園では少し不明確だと感じました。園児数の減少の心配と、保護者の方が認定こども園を選択するためのカリキュラム等の情報提示や明確な説明が必要だと思いました。

[委員長] その他に、何か意見はありませんか。

[委員] 有都小学校の場合は、電子教科書の導入の話があり、国の方からもはっきり同様の方向性が出されています。八幡市が先行的に実施するのであれば、それなりの研究校等を指定したり、それに関係する教育機関諸機関等と連携することも必要だと思います。これらのことは学校に任せることは難しいので、その道筋をつける布石を持つことが大切だと思います。学校から希望を募り可能なところから実施することが良いと思います。

[委員長] 有都小学校の校長先生が、タブレットについて一生懸命に仰っていました。

[委員] 小学校で英語教育が実施されますが、どの様に考えられていますか。

[事務局] 八幡市では、外国語学習については、10年ほど前から始めています。この間の成果としては、市が中学校現場の校長先生や英語教師から聞いているのは、以前の英語教育は小学校教育で一切教育しなく、中学校から英語科を始めるのですが、今までは抵抗感が大きかったのが、小学校から英語に触れる事から英語活動に馴染んでくことで英語への抵抗感は少なくなり、中学校の英語教育に入ってきたりやすくなっているとは、聞いています。

課題としては、小学校では、話す・聞く、のコミュニケーションが中心の英会話活動ですが、中学校になるとどうしても読み・書き・単語を覚える等の部分への繋がりをどうするのが大きな課題であるということです。英語研究会等では、小学校でこんな事を身に付けて、中学校に入ってくると中学校の英語がスムーズにスタートできるようにと、進めているところです。

[委員] 要するに、英語を誰がやるのか。担任がやるのです。外国語教育は、そうでしょうけれども英語となると専科教諭を雇うのか、或いは小中連携の枠組みの中で、そのような人材を採用すると言う様な事も含めて、導入時に実施する事は出来ないのか、その辺りを含めてどのようにお考えですか。八幡市として、八幡市の教育のグローバル化に力を入れていると市長は仰っていますが、小学校・中学校で具現するのは校長です。校長は、職員や保護者に語らなければなりません。八幡市が持っている指針が出るのであれば分かり易くなると思います。本日、学校訪問で出てきたのが、就学前教育とデジタル教科書がありましたので、少し話させていただきました。

[委員長] 私たちが現場に行きますと、わからない事もあります。そして行政の方でしてあげたらいいと思う事もあります。色々自由に発言いたしますが、その中で出来る事から手掛けていただいて、八幡市の教育が徐々に良い方向に向かえばいいと思います。

それでは、3. その他をお願いします。

3. その他

[事務局] ・平成28年八幡市議会第1回定例会会議録

・前月分議事録(写し)

以上2点を配付しております。

[委員長] それでは、以上をもちまして6月の定例教育委員会を閉会いたします。

※次回定例教育委員会

日時：7月12日(火)午後3時

場所：分庁舎2階 会議室A